



世界とつながる

クラウドファンディング

トールテムポールをカナダ先住民の
アーティストと造ろう

プロジェクトレポート





ご支援 いただきました みなさまへ

このたびの、私ども国立民族学博物館（みんぱく）のクラウドファンディング「世界とつながるトーテムポールをカナダ先住民のアーティストと造ろう」の募金にあたりまして、温かいご支援を賜り、誠にありがとうございました。

2019年10月28日から12月26日の募集期間中に、当初の目標を大幅に上回る総額 4,177,000円にも及ぶご寄付を頂戴いたしました。

また、ご寄付にあたりまして、応援や励ましの言葉をいただき、重ねて御礼申し上げます。思いがけず、皆さまのみんぱくへの想いに接することができ、今後の活動の糧にしたいと、感謝の念を新たにしております。

頂戴いたしましたご寄付は、今回のトーテムポールの制作の資金の一部に当てさせていただきました。

トーテムポールの制作は、カナダ北西海岸、キャンベル・リバーのビル・ヘンダーソン氏をはじめ、ヘンダーソン一家のメンバー4人の手で、昨年2019年4月から始められ、チェーンソーを使った荒彫り、手斧を使った手彫り、そして彩色の工程を経て、2020年2月初めに完成しました。

完成したトーテムポールは、3月上旬にバンクーバーまで陸送され、4月1日に大阪港に到着、4月10日にみんぱくに運び込まれました。トーテムポールの立ち上げにあたっては、制作者のビル・ヘンダーソン氏をはじめ、クワクワカワクウの方々6人を招聘し、立ち上げに伴う伝統的な儀式を営む予定でしたが、折からの新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、カナダからの来日がかなわず、儀式の実施が難しい状況が続いております。

トーテムポール自体は6月24日に立ち上げました。渡航制限が解除された段階で、クワクワカワクウの方々を招聘し、祝福の儀式を実施する予定です。祝福の儀式につきましては、期日が定まりましたら、みんぱくホームページ等で改めてご案内いたします。

ご支援頂きました皆さまにおかれましては、自分たちのトーテムポールだと、みんぱくのあらたなトーテムポールを末永く見守っていただければ幸いです。

このたび頂戴いたしましたご支援・ご芳志に、ここに謹んで御礼申し上げます。

2022年3月
国立民族学博物館長 吉田 憲司



もくじ

- 01 ご支援いただきましたみなさまへ
- 05 新しいトーテムポール制作の経緯
- 06 新たなトーテムポールの制作者
- 08 吉田憲司館長のトーテムポール制作現地報告
- 16 吉田憲司館長のトーテムポール制作最新情報
- 17 トーテムポールの完成から到着まで
- 22 新しいトーテムポールの立ち上げ
- 25 トーテムポール解説パネル



新しい トーテムポール 制作の経緯

みんなくでは、世界のさまざまな地域の文化についての理解を深める活動をおこなっています。その一環として、本館アメリカ展示場と屋外にカナダ北西海岸の先住民族のアーティストの手になるトーテムポールを展示しています。

これらのトーテムポールは、1977年のみんなくの開館時に制作されたものです。以来、みんなくの顔となってきましたが、このうち屋外のトーテムポールは、2018年の台風で両翼が破損してしまいました。

トーテムポールは、修繕などをおこなわず、朽ちるままにおいておくのが現地の習わしです。

そこで、みんなくでは、創設50周年をまもなく迎えるのを機に、現在のトーテムポールはそのままに、もう一本のトーテムポールを新たに制作することにいたしました。



2017年5月撮影

みんなく前庭に立つトーテムポール(トニ・ハント、リチャード・ハント作)

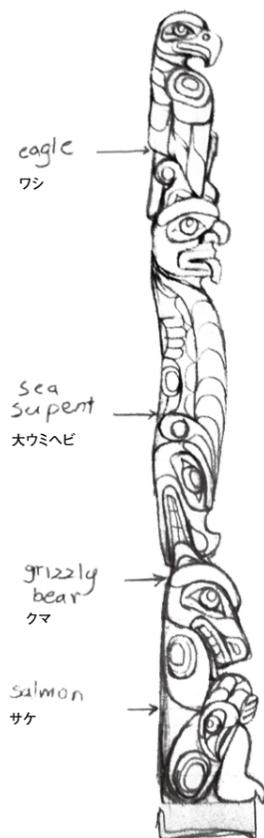


2018年9月撮影

新たな トーテムポールの 制作者

新たなトーテムポールは、カナダ国ブリティッシュ・コロンビア州バンクーバー島のキャンベル・リバーに在住の先住民族クワクワカワクウを代表するアーティストのビル・ヘンダーソン氏に制作を依頼しました。

今回は「偉大なる力 (great power)」を象徴するトーテムポールを制作しました。上からワシ(の精)、海蛇、サケを抱いたクマの3つを彫りこんだトーテムポールです。ワシの羽は、日本の台風を考慮して、羽根をたたんだ形姿にするか、両翼を小型化することとしました。



ビル・ヘンダーソン氏(左から2人目)の工房にて。
右から2人目はみんなくの岸上伸啓教授



ビル・ヘンダーソン氏と彼の手になるトーテムポール

吉田憲司館長の トーテムポール制作 現地報告

※本稿は、2019年12月2日、3日に前後編でREADYFORに掲載したものです。

10月28日から30日にかけて、私たちのトーテムポールが制作されているカナダ北西海岸、キャンベル・リバーの現地を訪れ、作業の様子を実際に目にしてきました。

キャンベル・リバー（Campbell River）は、「世界のサーモン・キャピタル」と呼ばれる、カナダでも随一のシャケ漁の中心地です。先住民族のクワクワカワクウの人びとが住む地域の南の端に位置します。町には、100本以上のトーテムポールが立っているようですが、その大部分が、今回、みんなくの新しいトーテムポールの制作を依頼した、ビル・ヘンダーソン（Bill Henderson）さんとその一家の手になるものだといいます。ビルさんは、現在、カナダを代表する、トーテムポール制作の第一人者とされるアーティストです。



キャンベル・リバーの港に建つ集会所のトーテム彫刻柱



10月28日段階の私たちのトーテムポール。

その基底の部分を見こんでいるのがビルさんです。

制作はビルさんをマスターに、ヘンダーソン一家の手で進められています。進捗は順調で、荒彫りが8割がた出来上がったところです。この段階までは、屋外で、チェーンソーを使って作業をしますが、それが終わるとポールを屋内に運び込み、手斧による手掘りの作業にとりかかります。この記事を投稿している11月末の段階では、すでに屋内での手彫りの作業に取り掛かっているとのこと。





作業をしているチームの皆さん。左から二人目がマスター(師匠)のビルさん。その横がビルさんの甥で、チーフ・カーヴァーのジュニア・ヘンダーソン(Junior Henderson)さん。写真の4人は、皆さん、ヘンダーソン一家のメンバーです。



ビルさんと立つ私。



キャンベル・リバー全体のビッグ・ハウス(大集会所)
内部の彫刻もすべて、ヘンダーソン一家の作品です。



キャンベル・リバーは、北海道石狩市と姉妹都市の間柄にあり、町の入り口の海辺には、石狩市から送られた赤い鳥居が立っています。その傍に立つトーテムポールもビルさんの作品です。

民博の新しいポールは、この写真の右端のポールに似た姿になるとのことです。



トーテムポールは、古くなり、損傷が目だっても、補修や再着色は
おこなわず、朽ちるままに置くのが習わしです。クワクワカクク
の人びとによれば、トーテムポールは、森から切り出し、彫刻を施

しても、森の一部であり続けているといいます。このため、朽ちて
いくときも、そのままにし、土になって森に帰すのだとされます。

キャンベル・リバー対岸のクワドラ島にて



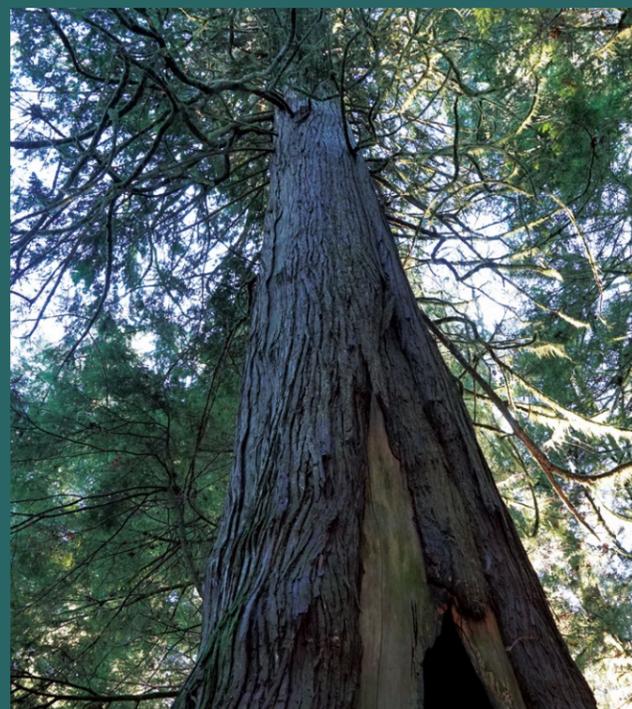
トーテムポールの完成は、1月の初旬になるようです。
そのあと、バンクーバー港までトラックで運び、船に乗せて、3月の初めまでには日本に到着する予定です。立ち上げは、民博の特別展「先住民の宝」(会期3月19日～62日)の会期中におこなう予定です。その際は、制作に関わってくれたアーティストたちにも民博に来てもらい、立ち上げに伴う伝統の儀式も催すことにしています。どうぞ、ご期待ください。*

*その後、2020年からのコロナ禍により、日本への到着が遅れ、また、特別展「先住民の宝」も会期が延期となりました。2022年3月現在も、制作者の来日がかなわず、立ち上げの儀式は延期されたままとなっています。



キャンベル・リバーの森に入ってみました。

クワクワカワクウの人びとの間では、トーテムポールをはじめ、家や船、家具や食器に至るまで、生活の用具はほとんどすべて、レッド・シダー(ヒノキ科ネズコ属の常緑樹 *Thuja plicata*。米杉と呼ばれるが、杉ではなく、日本のネズコと同類)の木で作られます。私たちのトーテムポールは、バンクーバー島の南部から切り出されたものだと聞きました。



レッド・シダー
(ヒノキ科ネズコ属の常緑樹、*Thuja plicata*)

米杉(ベイスギ)と呼ばれるが、杉ではなく、日本のネズコと同類。クワクワカワクウの人びとのあいだでは、トーテムポール、家、船、家具、器、カゴからスプーンに至るまで、すべてがレッド・シダーの樹から作られる。



吉田憲司館長の トーテムポール制作 最新情報

※本稿は、2019年12月12日READYFORに掲載したものです。

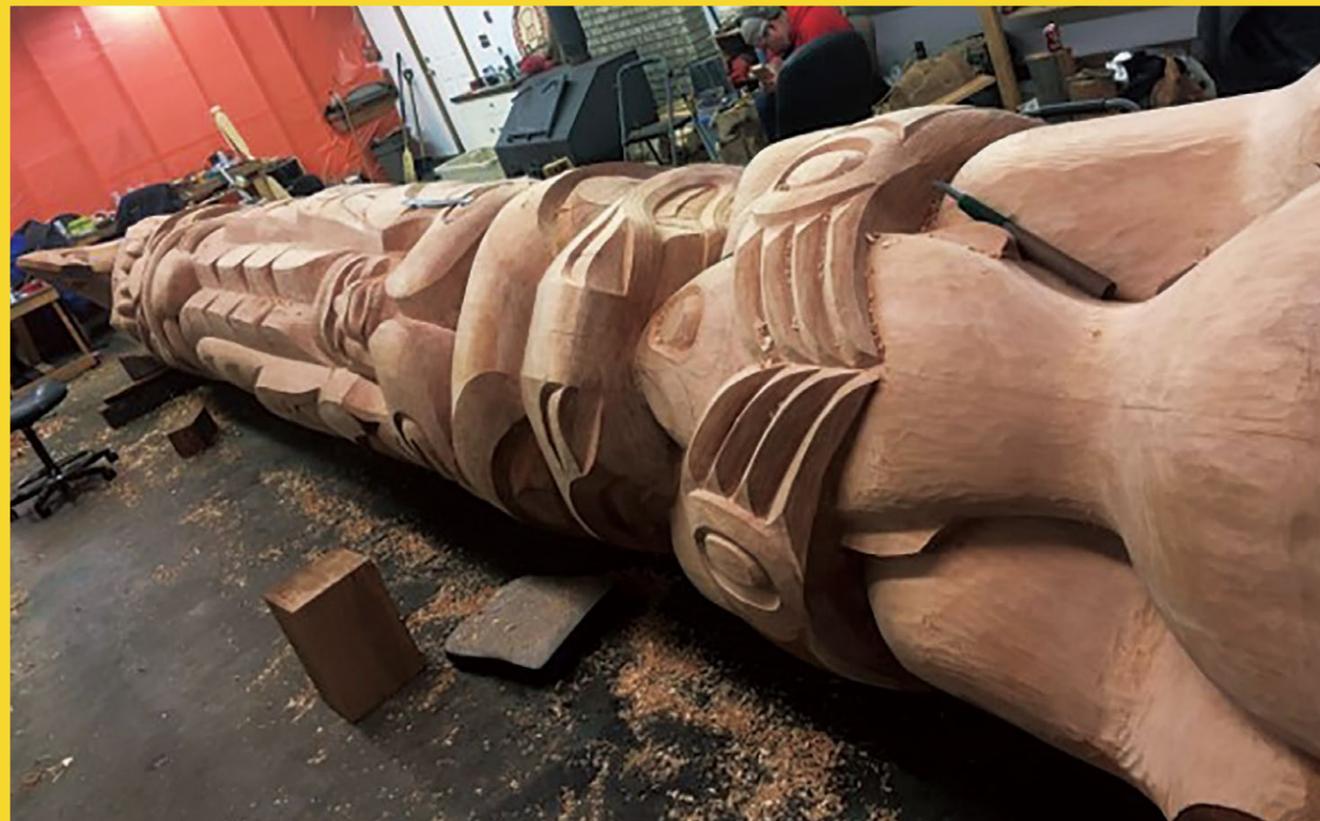
2019年12月11日、現地（Campbell River, Canada）から報告が届きました。現在、トーテムポールは工房の屋内に運び込まれ、手彫りの行程に入りました。頂上部のワシの頭部も姿を現しました。中央部、大ウミヘビの頭部もくっきりと。彩色の作業に入るのも間もなくです。



ワシの頭部



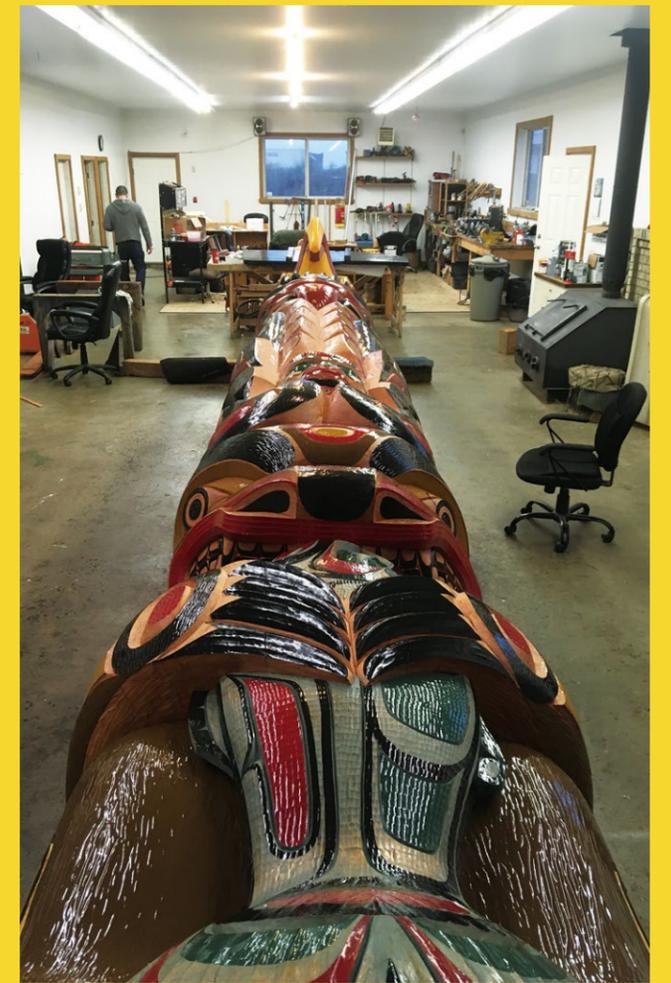
大ウミヘビの頭部



トーテムポールの 完成から到着まで

みんなクラウドファンディング寄付者限定サイトから一部改変
https://older.minpaku.ac.jp/museum/projects_minpaku2019_news

2020年2月6日
彩色後のトーテムポール



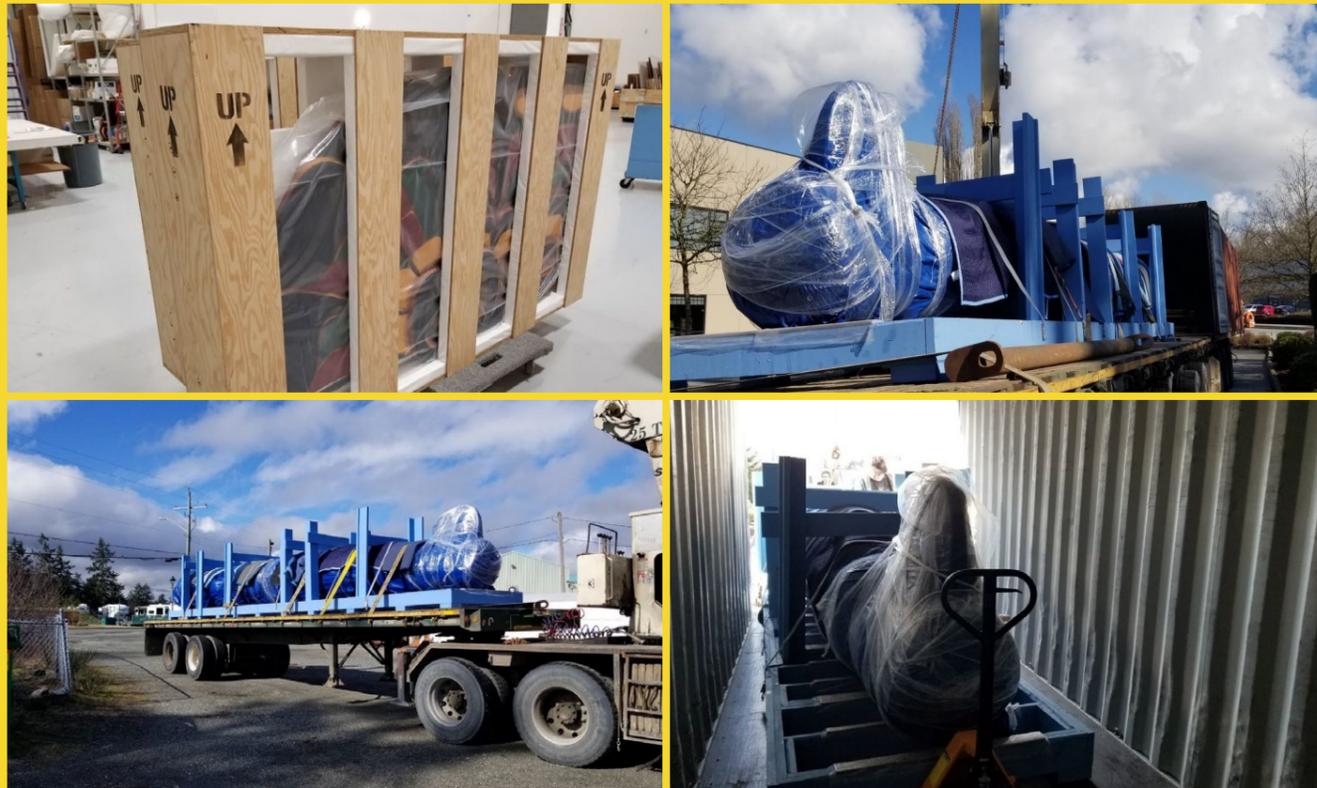


2020年2月22日

完成したトーテムポール。カナダ、キャンベル・リバーにて。(吉田館長撮影)

2020年3月6日

トーテムポール船荷の様子



2020年4月23日

トーテムポールの設置準備で、鉄製の支柱を設置しました。着々と準備が進んでいます。



2020年4月10日

トーテムポール搬入作業

カナダで制作されたトーテムポールが、みんぱくに到着。
大型トレーラーで運ばれたのち、大型クレーンによる搬入作業が行われました。



新しいトーマポールの立ち上げ

みんなクラウドファンディング寄付者限定サイトから
https://older.minpaku.ac.jp/museum/projects_minpaku2019_news



読売新聞



2020年7月3日

6月24日、みんなの新たなシンボルであるトーテムポールの立ち上げをおこないました。

ポールの全長が約10m、直径が約1.2m、重量がなんと約3tの大きなトーテムポールで、両サイドに1m×2m程度(1枚当たり)の羽が付いています。トーテムポールは大型クレーンにて吊り上げられ、無事に立ち上げが完了しました。

芝の貼り替えや、翼の補強など一部作業は残っていますが、ぜひ新たなトーテムポールを見にご来館ください。

また、ご寄付頂いた方のお名前(希望者のみ)を館内と、トーテムポール横に銘板のかたちで掲載させて頂きました。



解説パネル

トーテムポール

制作者：ビル・ヘンダーソン (マスター・カーヴァー)
ジュニア・ヘンダーソン、グレゴリー・ヘンダーソン、ジョナサン・ヘンダーソン

民族：クワクワカワクワ 国名：カナダ
年代：2020年制作

Totem pole

Made by : Bill Henderson (Master Carver)
with Junior Henderson, Gregory Henderson and Jonathan Henderson
Group : Kwakwaka'wakw Country : Canada
Date : Made in 2020

H0326487

北アメリカ北西海岸の先住民族のあいだでは、さまざまな動物の形象を刻んだ巨大な柱が制作されています。トーテムポールと呼ばれるそれらの柱は、親族集団や個人の歴史を示し、村や家の標柱や墓標、家屋の内部の柱として立てられました。トーテムとは、それぞれの親族集団の祖先と特別な繋がりのあるとされる動物や事物のことで、集団の呼称や紋章として伝承されてきました。ビル・ヘンダーソンの手で2020年に制作されたこのトーテムポールは、上部にヘンダーソン一家の紋章であるワシ、中央部に人の姿かたちをした双頭の大ウミヘビ「シシウトル」、下部にサケを抱いたクマの姿が刻まれ、人びとを見守る「偉大な力 (great power)」を象徴するものだと思います。



このトーテムポールは、先住民族クワクワカワクワのアーティストで、キャンベル・リバー在住のビル・ヘンダーソン氏とその一門の手で制作されました。

